

『八群品』講演会

Empreintes silencieuses, Paroles ressuscitées

– Les aperçus du Bouddha sur la conscience, retrouvés après deux millénaires –

沈黙の伝承に蘇った言葉

— 二千年後に明かされたブッダの意識論をめぐって —

共催：日仏東洋学会・科研費基盤研究（B）「最古の仏典『八群品』の研究」

日時・会場：2025年3月1日（土）14:00–16:30 日仏会館 501 会議室（ハイブリッド方式）

Zoom URL: <https://zoom.us/j/97750501392> （自由にご参加いただけます）

講演

中谷英明 龍谷大学世界仏教文化研究センター招聘研究員、東京外大名誉教授

ニッバーナ（涅槃）：無意識の桎梏からの解放をめざして

Vincent Eltschinger, Professor, Ecole Pratique des Hautes Etudes, Paris, France

Quel esprit pour renaître ? Esprit, matière et renaissance dans la philosophie du bouddhisme tardif

司会 長谷川琢哉 東洋大学教授

概要

昨春、韻律、詩節配列法、思想内容等に基づいて、『八群品』（Aṭṭhakavagga、パーリ聖典 Suttanpāta 4章）が現存する最古の仏典と特定され、その中に、古註の誤注によって見失われていた意識分析「五位相二様態意識論」が二千年ぶりに回復された（中谷論文参照¹）。

精神医学者も驚く精緻さを以て語られる五位相論が、実はブッダの哲学の根幹をなしており、その立場はいわゆる「原始仏典」とは一線を画するものである。認識における意識の発生から成熟までの過程を5位相に分け、各位相に顕在的と潜在的の2様態を指摘し、無自覚の潜在意識が自覚的顕在意識を作ることを示す。この五位相を用いて日々自省し、潜在意識中の利己性の払拭に努める過程がニッバーナ（涅槃）である。潜在意識は拂拭しきれず、常に伏在すると自認して、**不断の自己刷新**に努める生き方、これが安寧であるとブッダは言う。

詳細が判明したこのブッダの哲学は、真理の存在を認めず（したがって「四聖諦」等の分節化はあり得ない）、見、聞、思、信仰、現代で言えば文化、科学、哲学、宗教のいずれにも信を置くなと繰り返す。

不断の自己刷新という、一見ありふれた原理（カントは人にとって義務であり目的でもあるものは、自分の完全性と他人の幸福であり、完全性の獲得には無限の時間を要すると言う）に見えるこの哲学の持つ実践的射程を見極めたい。そのためには、このブッダ哲学の素材となった最後期ヴェーダ思想とブッダ以後二千数百年の歴史を有する仏教思想の見直しが必要であるが、今回は、ブッダの新哲学を中谷が紹介し、中期仏教の Dharmakīrti, Śāntarākṣita 等の仏教論理学者が五位相論をどのように継承するか（あるいはしないか）を Eltschinger 教授に語って頂く。

今後、このブッダの新哲学原理を巡って、仏教学、インド学はもとより、その他の人文・社会・自然の三学を含む共同研究体制の構築されることを願っている。 （文責 中谷英明）

¹ 中谷英明「ブッダが残した一詩篇『八群品』の研究」東洋文庫リポジトリ、2024年3月 (<https://toyobunko.repo.nii.ac.jp/records/2000363>)

